

(社) 日本コンクリート工学協会四国支部

第5回「フライアッシュの有効利用と混和コンクリート構造物の耐久性に関する研究委員会」議事録 (案)

1. 日 時 : 平成 19 年 10 月 24 日 (水) 13:30~16:30
2. 場 所 : 徳島大学工学部建設棟 3 F A303
3. 出席者 : 上田委員長, 石井, 上路, 原田, 堀井, 水口, 横田, 横手, 吉川の各委員  
(敬称略, 順不同) 以上 8名
4. 配布資料 :
  - 5-0 JCI 四国支部第 5 回「フライアッシュの有効利用と混和コンクリート構造物の耐久性に関する研究委員会」議事次第
  - 5-1 JCI 四国支部第 4 回「フライアッシュの有効利用と混和コンクリート構造物の耐久性に関する研究委員会」議事録 (案)
  - 5-2 JCI 四国支部第 4 回「フライアッシュの有効利用と混和コンクリート構造物の耐久性に関する研究委員会」議事録 (案) HP 用
  - 5-3 報告書目次 (案)
  - 5-4 原稿の執筆要領
  - 5-5 成果報告の講習会会告 (案)
  - 5-6 WG1 (利用現状調査 WG) 活動経過報告
  - 5-7 WG2 : 有効利用法検討 WG 資料
  - 5-8 フライアッシュ混和既設コンクリート構造物の調査
  - 5-9 フライアッシュ II 種をセメントの一部代替使用したときのコンクリート性状の確認
  - 5-10 フライアッシュ混入によるコンクリートのひび割れ低減効果
  - 5-11 フライアッシュを用いたコンクリートの施工性能の評価方法
  - 5-12 フライアッシュを混和したコンクリート中の鉄筋腐食モニタリングに関する研究
  - 5-13 「環境を配慮したセメントおよび混和材を使用したコンクリート」講習会会告
  - 5-14 日本建築学会フライアッシュコンクリートの設計施工指針新旧比較表
  - 5-15 2007 年ポーランド・ワルシャワで開催された CANMET/ACI 国際会議への参加報告
5. 議 事 :
  - (1) 委員長挨拶  
上田委員長より第 5 回研究委員会開催にあたっての挨拶があった。
  - (2) 前回議事録 (案) の確認  
資料 5-1 の第 4 回研究委員会議事録 (案) が上田委員長より説明され, 異議なく承認された。
  - (3) 成果報告書について  
資料 5-3 および資料 5-4 により成果報告書の目次案および原稿執筆要領案が上田委員長から説明され, 当面はこの案に従って執筆を進めることが確認された。
  - (4) 各 WG の活動方針について  
各 WG 主査から WG 活動状況の説明があり, 議論の結果, 以下の点が確認された。
    - ・ WG1 「利用現状調査 WG」では, 資料 5-6 に示すようにアンケート結果の整理を進めている。今後は, 整理した結果を用いて, さらに項目間の相関関係などの分析を進めたい。
    - ・ WG2 「有効利用法検討 WG」では, 資料 5-7 に示すように文献リストがほぼまとまり, 今後は文献カードの作成を進める。実験的検討については, 現在徳島大学と阿南高専で検討を進めている。
    - ・ WG3 「耐久性評価 WG」では, 資料 5-8 に示すように, 既設構造物調査を進めており, FA コンクリートの諸特性が明らかになってきた。実験的検討は, 徳島大学, 高知高専および大和生コンで進めている。
  - (5) 実験的検討の進捗状況  
資料 5-9~5-12 を用いて, 各担当委員から実験的検討の進捗状況が報告された。これらの検討は現在継続中であり, 報告書には今後の検討結果も併せて掲載予定であることが確認された。
  - (6) 話題提供  
資料 5-13 および資料 5-14 を用いて, 上田委員長から日本建築学会のフライアッシュを用いたコンクリートの指針改定に関する講習会日程と, 主要な改定内容について紹介があった。さらに, 資料 5-15 を用いて, 今年の 5 月にポーランドで開催された混和材に関する国際会議について, 紹介があった。
  - (7) 今後の予定  
上田委員長から今後の方針として以下が確認された。

- ・ 今回承認された、目次案および執筆要領に従って各WGで報告書の執筆を進め、次回の委員会で報告書原稿案を提出する。
- ・ 次回委員会での議論を踏まえて、報告書の最終原稿は来年の3月末提出を目標とする。

6. 次回の予定：日時：平成20年1月23日（水）13:30～， 場所：徳島大学工学部

報告者：上田  
以 上